

お知らせ

女性研究者のための 賞の創設

内閣府が策定した第5期科学技術基本計画（平成28～32年度）は、

4本柱の一本「科学技術イノベーションの基盤的な力の強化」の中で

“女性の能力を最大限に発揮できる環境を整備し、

その活躍を促進していくことが不可欠である”と謳っています。

農芸化学分野においても研究および産業の発展を図るため、

女性研究者の人材育成と各分野での活躍が必要です。

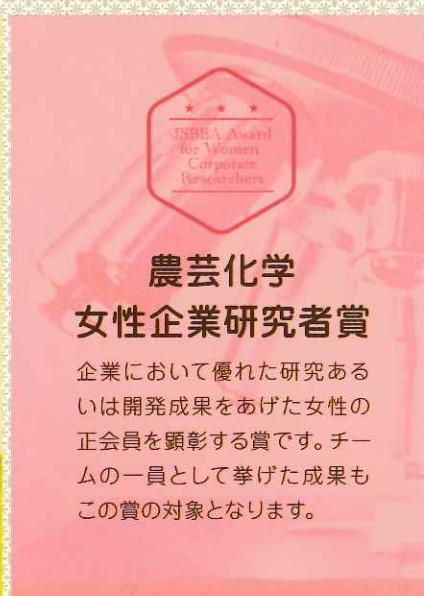
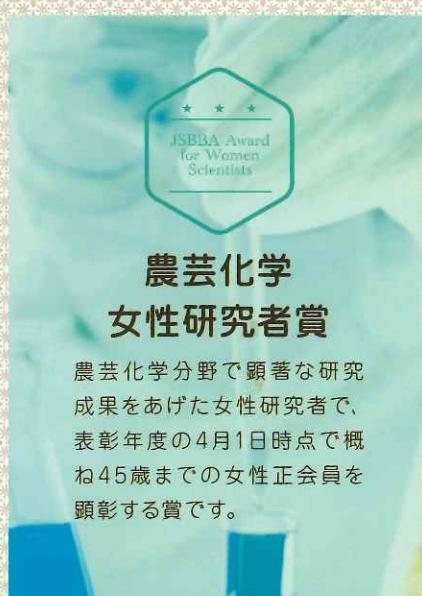
そこで、日本農芸化学会は大学、公的研究機関、

企業等で研究あるいは開発に従事し優れた成果を挙げている女性正会員を

顕彰することで“支援”し“可視化”することを目的に3つの賞を創設し、

2017年度の受賞者を決定しました。

公益社団法人日本農芸化学会会長 植田 和光
男女共同参画担当理事 裏出 令子



■ 2017年度 ■

農芸化学女性研究者賞 受賞者(3名)



飯嶋 益巳 氏

【大阪大学 産業科学研究所・特任准教授】

■ 受賞題目 ■ AWARD SUBJECT

「バイオセンサー表層における
センシング分子のナノレベル精密整列化に関する研究」

■ 飯嶋益巳 氏からのメッセージ ■ MESSAGE

実験が好き。その一心で大学進学や研究職を選びました。
研究は大変なことも多いですが、
予想する結果が得られた時の興奮や達成感は、他に味わうことができません。
「理系」、「農」、どちらも女性から敬遠されがち?ですが、
特に農芸化学分野は私たちの生活に密接に関係し、社会に貢献できる研究がほとんどです。
多くの女性が得意とするきめ細かい操作や気配り力、発想力を生かして、
好きな実験・研究を続けていきませんか?



井上 奈穂 氏

【山形大学農学部・准教授】

■ 受賞題目 ■ AWARD SUBJECT

「植物性機能性成分による病態発症改善機能に関する研究」

■ 井上奈穂 氏からのメッセージ ■ MESSAGE

私の専門は栄養化学、食品機能学です。
修士課程在学時に研究の面白さに目覚め、研究者への道を歩み出しました。
しかし、女性が研究者として第一線で活躍できるようになるのかという不安も感じていました。
女性研究者を取り巻く環境は年々変化し続けていますが、
現在も当時の私と同じく、女性研究者像を思い描けず、
進路に悩んでいる学生もいると思います。
意見交換や情報発信によって、そんな皆さんの将来の選択の一助になればと考えています。



佐藤 ちひろ 氏

【名古屋大学
生物機能開発利用研究センター・准教授】

■ 受賞題目 ■ AWARD SUBJECT

「酸性糖鎖ポリシリアル酸の新機能の発見とその応用展開」

■ 佐藤ちひろ 氏からのメッセージ ■ MESSAGE

どうしてかわかりませんが、研究者になることしか頭に浮かばなかったために、博士を取得しました。
その後、その研究の面白さを凌駕する物事が目に入らず、やっている研究を続けらるように、
深められるようにと踏ん張っていたら今に至りました。
研究が面白くて抜け出せない魅力を秘めていることは
この領域に携わる人には特にご理解いただけると思います。
ただ、研究の面白さを凌駕する内容というのは個人差がありますので、
その時期に何を最優先して生きて行くか?ということは誰に対しても重要な課題であると思います。

■ 2017年度 ■

農芸化学若手女性研究者賞 受賞者(3名)



加藤晃代 氏

【名古屋大学大学院生命農学研究科
名城大学総合研究所・研究員】

■ 受賞題目 ■ AWARD SUBJECT

「有用タンパク質の微生物生産とその産業利用に関する研究」

■ 加藤晃代 氏からのメッセージ ■ MESSAGE

微生物やタンパク質を扱っており、
どれも一筋縄ではいかず日々戦闘していますが、それが新鮮で面白いところです。
私は、自分自身が研究の仕事に向いているのかはいまだに分かりませんが、
物事を観察して、想像したり実験したりすることが好きだからこそ、
楽しんで続けることができているように思います。
実験と同じで、何事もやってみないと分かりませんので、
まずは一步、好きな分野へ踏み込んでみることをお勧めします。



田中沙智 氏

【信州大学 農学部・助教】

■ 受賞題目 ■ AWARD SUBJECT

「食品由来機能性成分による免疫調節作用メカニズムに関する研究」

■ 田中沙智 氏からのメッセージ ■ MESSAGE

私は、農学部に進学して研究室に入ってから
研究の面白さを感じて研究者になりたいと思うようになり、これまで研究を続けてきました。
私の専門分野である食品免疫学は、食べ物や食生活による免疫機能への影響を調べ、
そのメカニズムを明らかにする学問分野です。
女子学生のみなさんには、興味のあることに対して一生懸命に取り組むことを勧めます。
そして、何事も前向きに捉え、
色々なことにチャレンジする精神を持ち続けて欲しいと思います。



山田美和 氏

【岩手大学 農学部・准教授】

■ 受賞題目 ■ AWARD SUBJECT

「微生物による生分解性プラスチック合成および
微生物由来有用酵素に関する研究」

■ 山田美和 氏からのメッセージ ■ MESSAGE

高校ではあまり勉強しない微生物に興味を持ち、
学部生時バイオプラスチックの微生物合成を研究しているラボに入りました。
そこで微生物の可能性に魅せられ現在に至ります。
現在は、多様な微生物由来の有用酵素に関する研究も行っています。
応用を目指して目的的性質を持つ微生物や酵素を自然界から探索し、磨き上げる楽しさは、
上手くいかなくてもあと少し頑張ってみようと思わせる不思議な魅力があります。
女性研究者の比率はまだ少ない現状ですが、
面白そうと思う方は一緒にこの世界へ飛び込んでくださいと嬉しいです。

■ 2017年度 ■

農芸化学女性企業研究者賞 受賞者(3名)



小野 佳子 氏

【サントリーウエルネス株式会社・研究主幹】

■ 受賞題目 ■ AWARD SUBJECT

「ポリフェノールの機能解明に関する研究とその応用開発」

■ 小野佳子 氏からのメッセージ ■ MESSAGE

食は人が生きていくうえで切っても切り離せないもの。
その食を通じて人をHappyにできたら、という思いから、
農学部に入学、食品メーカーである今の会社に入社しました。
研究の楽しさは今まで知らなかった・気づかなかつた何か新しい発見ができること。
この楽しみがあったから長く続けてこられたのだと思います。
研究をやってみたい!楽しい!と思っている人がいれば、
是非とも女性研究者としてのキャリアにチャレンジしてみてください!



小林(袴田) 夕香 氏

【株式会社J-オイルミルズ・課長】

■ 受賞題目 ■ AWARD SUBJECT

「きのこ由来レクチンのがん診断への応用」

■ 小林(袴田)夕香 氏からのメッセージ ■ MESSAGE

どちらかというと数学や化学が得意であったため農学部(理系)に進学し、
4年生で研究室に配属され、研究を始めました。
初めて入会した学会も、初めて研究発表した学会も日本農芸化学会でした。
実験が大好きで毎日わくわくでした。
そのわくわくは就職し、企業研究者になっても変わりません。
仕事と言う部分もありますが、趣味の領域でもある研究(実験)を
このように毎日できることは幸せな事だと感じています。



夏目みどり 氏

【株式会社 明治 食機能科学研究所・専任課長】

■ 受賞題目 ■ AWARD SUBJECT

「力カオポリフェノールに関する包括的研究」

■ 夏目みどり 氏からのメッセージ ■ MESSAGE

高校の部活動で研究の楽しさを知り、大学は農学部へ進学、
4年生の時は朝から晩まで実験していました。
卒業後、現在の会社に就職し、本格的な研究生活がスタートしました。
出産後、力カオの研究に出会い、20年間取り組んできました。
仕事には波があり良いときも悪い時もありましたが、
良い研究テーマや仲間との出会いに恵まれたことはとても幸運だったと思います。
新しいことへの好奇心、周囲への感謝の心を持ち続けることが長く仕事を続ける秘訣です。